



名前	後藤 哲平
所属部署	生理学研究所 遺伝子改変動物作製室
職種	特任研究員
この研究室に入った日	2015. 4. 1.
出身地	滋賀県大津市
趣味	バスケット・ゴルフ

インタビュー

Q1 現在の研究について教えてください。

「異種胚盤胞補完法」という生体内の発生環境を利用してES/iPS細胞から立体固形臓器を作り出す研究をしています。この方法を使って、ES/iPS細胞由来胸腺や腎臓の作製を試みています。それから、研究室の名前の通り、全国（海外も含め）の研究者から依頼されるの遺伝子改変ラット・マウスの相談や作製も行っています。

Q2 研究者になろうと思ったきっかけや経緯は？

恩師の前多敬一郎先生と東村博子先生との出会いです。前多先生が講義で述べられた、「自分の手と頭を使って世界の誰も知らないことを知れる、それが研究者の醍醐味だ」という言葉に惹きつけられました。研究室配属で悩んでいた際、東村先生に偶然出会い、「ここで出会ったのも何かの縁」と言われ、導かれるように名古屋大学農学部生殖科学研究室へ入室しました。そこで指導教員の上野山賀久先生から研究者としての振る舞いを学び、そうするうちに神経内分泌の奥深さに魅せられ、研究に打ち込みました。その頃から明確に大学院に進学して将来は研究者としてやっていこう、とビジョンを描きました。

Q3 大学院時代はどんな研究をしていたのですか？

出身大学院では、繁殖機能を制御する脳内キスペプチンの遺伝子発現制御メカニズムについて研究をしていました。インビボレポーターアッセイによって、キスペプチンをコードするKiss1遺伝子発現をONにするエンハンサー領域の存在を見出しました。

Q4 繁殖生物学会についての印象を教えてください。

分野を切り拓いたり、その分野のトップランナーの先生が多いと思います。さらに、分野が基礎から応用まで幅広い。また、他の学会に比べて、若手育成に力を入れていると思います。学会開催中、学生を含めた若手が積極的に発表や質問をし、非常に活気にあふれていると感じます。それから、女性の研究者が多く活躍しているのも特徴だと思います。

Q5 最後に一言あれば、よろしくお願いします。

日々前進あるのみです！そのような姿勢で研究を進め、繁殖生物学会ひいては科学の発展に貢献できるようにしていきたいです。